

ふるさとを元気づけたい

私が住んでいる大代という町には、伝統芸能が二つあります。それは、小笠原流田植え囃子と石見神楽です。

大代町は古い町並みが特ちょう的な、人口二百八十人に満たない小さな町です。静かな町ですが、地域でのイベントがあると、たくさんの方が集まり、とてもにぎやかになります。また、人気のおそば屋さんがあり、そこ

からは、標高八百ハメートルの大江高山が見られます。地域の人も温かくて、とてもすてきな町です。

伝統芸能である石見神楽は、私にとって、こわく感じていたものでした。しかし、今年四月にあつた例大祭での出来事です。少し神楽を見てみようと思ひ、神社に行きました。すると、かこいい舞や奏楽のリズムに心がかれ、それが神楽を好きになるきっかけになりました。そして、ある日母に、

「私も神楽をしたい。」
と伝えました。そして、大江高山神楽社中に
兄弟といっしょに入団しました。家族からは、
「まさか神楽を好きになるとは思わなかった。」
とおどろかれました。

例大祭を見てから、私には目標ができました。
それは、恵比須を舞うことです。おもし
ろく舞っていたり、みんなを笑顔にしていた
りしたのが印象的だったからです。
しかし、このすてきな大代町には、ずっと

なくならない問題があります。それは、人口
が減少し続けていることです。昔は町が栄え
ており、十七夜には出店がたくさん出たり、
田植え囃子を見たりしたと聞きました。大家
には、病院、スーパー、信用金庫、散髪屋な
どたくさんのお店が並んでいたと聞きました。
ですが、今では空き家が多く、少しさみしく
感じます。また、子どもが減り、高齢者が増
える少子高齢化が進んでいます。この問題を
解決するのは難しいですが、高齢者が多いか

らこそ、元気な町であってほしいです。だから私は、自分のふるさとを元気づけたい。という思いで恵比須を舞い、ふるさとの人たちを笑顔で元気にしたいと思いました。今では、神楽のことも考えられないくらい神楽が大好きです。神楽を通して、自分のふるさとに対しての考え方が変わってきてきました。今後のふるさとのあり方や自分に何ができるかを考えていきたいと思っています。これからも伝統芸能を守り続けて、ふるさとを大切にしていきたいです。

ふるさとをはなれて暮らしている人も、ゆくりとふるさとのすてきな風景を見てみませんか？そしてそのことをたくさんの人に伝えてみませんか？

ふるさとが笑顔であふれるために、地域の人のつながりを大切に、伝統芸能や町並みなどのふるさとにしかないものを地域のみんなで守り続け、笑顔が絶えない町にしていきたいです。